平成８年７月10日号

REPORTER'S EYE

「ちゃっぴい9」は市民がつくる市民のためのチャンネルです

【リポーター】
樋口　輝彦さん
（富士見在住）

今回は、いつも楽しい情報を提供してくれる狭山ケーブルテレビを紹介します。

今回は、今年で開局1周年を迎えた狭山ケーブルテレビを訪ね、私たちがふだん見ている番組の作り方などについてお話をお伺いしました。

楽しい話題、ホットな情報いつでもお待ちしています

皆さんは、狭山ケーブルテレビをご覧になったことがありますか。「ケーブルテレビって、最近よく聞くけどなんだろう。」と思っていらっしゃるかたも多いと思います。そこでまず、どんな仕組みで家庭のテレビに情報が届くのか伺いました。

テレビは、東京タワーからの電波をそれぞれの家庭で受信して映す仕組みになっています。ですから、あいだに高い建物などがあると画像が乱れてしまいます。それに対し、ケーブルテレビでは電波を障害物に遮られない場所に立てた業務用アンテナで受信し、それをケーブルをつうじて各家庭に届けます。この方法だと情報が遮られることがないので鮮明な映像と音が届けられるのです。それから、皆さんがケーブルテレビと聞いて一番に思い浮かべるのが「ちゃっぴい9」という自主製作番組だと思いますが、このほかにもBSやCSなど合わせて25ものチャンネルが楽しめるそうです。また、ケーブルテレビのシステムは今話題のインターネットのように双方向での利用ができるので、将来的には独居老人が家に居ながら医師の簡単な診断を受けることなども可能になるかもしれないとのことでした。

つぎに、番組がどのように作られているのか聞いてみました。撮影、収録をした素材テープをもとに音や映像の処理（編集）をして、番組に作り上げるそうです。その作業はすべて3～4人でやっているそうで、仕事量の多さに驚きました。私も編集を少し体験しましたが、難しいけれどおもしろく、自分で作り上げた映像が放映されると、大きな充実感を感じるだろうと思いました。制作のボランティアも受け付けているそうで、こういった作業が好きで興味があるかたはぜひ連絡してみてください。

ケーブルテレビのかたがたが自主製作番組を作るときに心がけるのは、地域に密着したものを作ることだそうです。大きいテレビ会社の番組は幅広い視聴者がいますが、あまり身近な存在ではなくなってしまいます。その点、ケーブルテレビは狭山市内の情報を身近なところから発掘して放映しています。家庭でホームビデオで撮影した映像も、番組で流せるそうです。それから、運動会や学園祭、自治会などで催し物があるときはぜひ情報提供をしてみてください。取材も可能だそうです。サークルの会員募集や発表会などのPRにもよいですね。このように、市民が積極的に番組制作に参加できるのが、ケーブルテレビのよいところだと思います。これからも地域に密着したチャンネルを市民みんなで協力して作っていけるとよいですね。

こんにちは。ぼくはマスコットキャラクター「ちゃっぴい」です。狭山ケーブルテレビは、S・CATという愛称なんだよ。番組に関するお問い合わせは☎56―5630、富士見1―5―13へお願いします。

Opinion コーナー VOL.23

「工房 夢来夢来（むくむく）」ではみんな笑顔です

ワープロのほかに、籐工芸や織物もあります

中田亜由美さん
（狭山台）

私は、狭山台南小学校に新しく開所した「工房 夢来夢来」で毎週月曜日にワープロを習っています。10台ありますが、活動している人はボランティアのかたを含めて5～6人なので今は機械が余っています。練習では、夢来夢来で2か月に1回発行の「かわらばん」を作っています。以前は、障害者でワープロを打てるのは私だけだったので、作業が負担でしたが、今は手伝っていただけるかたが増えたので、楽になりました。自分が作ったものが形になって残るのは、とても楽しく、やりがいもあります。ぜひ一度、かわらばんを見てくださいね。この工房夢来夢来はほかの作業所と違い、覚えたことを直接労働に結び付けません。誰でも自由に楽しく活動できるところがよいと思います。もっと多くの人にこの場を知ってもらい、活動に参加してもらいたいですね。とくに在宅の障害者のかたの参加をお待ちしています。

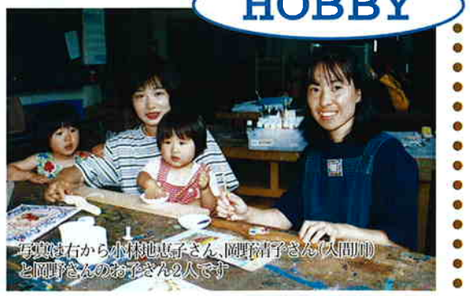
狭山の生態系シリーズ⑯

アマガエル

撮影：狭山生態系保護協会狭山支部
高橋 昇さん（中新田）

全長約3～4センチ、アマガエル科の小型の蛙。4本の足のそれぞれの指端に吸盤をもち、樹木などに登って住みます。体は緑色または灰色で、鼻から目・耳にかけてと体側とに黒い斑紋があり、周囲の状態によって体色が変化します。雨が近づくと鳴きたてることから、この名前があると言われ、日本中いたるところで見られる、最も身近な蛙です。ほかに「あまごいむし」などとも呼ばれます。

HOBBY



写真左から小林也恵子さん、岡野佑香子さん（人間用）と岡野さんのお子さん2人です

木工細工

児童館の母親クラブの活動で、木工クラブに入ったのが、私たちが木工を始めたきっかけです。クラブの活動日のほかに週1回は何人か集まって作業をしています。今までに5つ位の作品を仕上げました。もともと洋裁が好きで、木工は糸ノコの作業がミシンをかけるのに似ていて、それでいながら木と布はまた違った感触や温もりを味わえるのが魅力ですね。今作っているのはハンガーですが、今度は切り文字で玄関のネームプレートを作ろうと思っています。

エネルギッシュ 狭山の企業⑯

八千代工業株式会社柏原工場
（柏原370）☎54―3350

もっと人へ　もっと世界へ

八千代工業（株）は昭和28年に創業し、狭山市柏原には昭和47年に工場を設立しました。人間尊重、顧客第一を基本理念に、主に四輪自動車のフュエルタンクやサンルーフの機能部品、バンパーやインストルメントパネルの樹脂部品、ボディ関係のプレス部品をはじめ、プレス金型設備や溶接設備などを自社開発し、設計から製造まで行っています。生産効率や作業効率を追及した独自の技術と品質管理は海外でも高い評価を受け、アメリカ、カナダ、イギリス、タイなどに技術供与も行っています。直接市場に出回る商品ではないので、あまり知られてはいませんが、チャレンジ精神で躍進している会社です。